第２回（仮称）青森県ＤＸ推進プラン議事録（サマリー）

日時　令和５年６月７日（水）
　　１５：００～１７：００
場所　青森県庁西棟８階中会議室

１　開会

- 全委員出席（１２名）

２　議事

- 「（仮称）青森県ＤＸ推進プラン」における本県のめざす姿や推進方法について意見交換を行った。

- 各委員からの主な意見は以下のとおり。
  - ロードマップによって、今やるべきこと、２～３年後にやること、２０年後にやることが見えてくることを期待する。
  - このプランでは、「青森だけど意外とおもしろい」という価値転換の起点になるような議論や計画づくりができると良い。
  - 基本理念に込めた思いがとても良い。めざす姿と取組をリンクさせ、動画のようにストーリーを作ると繋がりが分かると思う。ストーリーが大事である。
  - 人に振り向いてもらうには期待感や良い違和感が必要であり、分野ごとにＤＸの恩恵を受けるターゲットを明確に、その人に刺さるようなＤＸにする。
  - ＤＸは手段であり、目的になってはいけない。農林水産業や観光業、県民の課題を解決するのがめざす姿であり、それを解決するためにＤＸを使っていく。
  - ＤＸという言葉に拒否感を持つ人がいるのであれば、分かりやすい違う言葉での表現も必要。
  - 県内のＩＴ事業者がＤＸで地元の課題解決ができるように、このプランに盛り込んではどうか。
  - めざす姿を実現するためには、必然的にデジタルが必要になってくる。「ＤＸだから新しいことをしなくてはいけない」という気持ちにさせないことが大事。
  - デジタルデバイド対策は、暮らし・まち分野だけでなく、行政にも産業にも横断的にあるものとしてとらえた方が良い。
  - プランでは、農業、教育、医療、産業など自分たちの姿がどうなっているか、わくわく感やより明るい未来を示すことが必要。
  - ＤＸを使って、ビジネスモデルを作り、生産性を上げていく。地元のＩＴ事業者が、そのビジネスモデル自体を作り、そのビジネスモデル自体を売り出していく。
  - 「わくわく」だけではなく、安心も含めたストーリーにすると、県民全員が自分事としてＤＸをとらえてくれると思う。

３　閉会

－以上－